

# 【小中学校 家庭、家庭分野】

## 題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準

※枠内は定型文例と□は評価内容

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・指導事項アについて、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。</p> <p>・指導事項アについて、その文末を「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。</p> <p>・「知識・技能」については、原則、指導事項アについて評価する。</p> <p>・内容A(4)ア、B(7)ア、C(3)アの評価の観点、知識・技能ではなく、思考・判断・表現である。</p>	<p>指導事項イについて、その文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について(①)問題を見いだして課題を設定し、(②)様々な解決方法を考え、(③)実践を評価・改善し、(④)考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。</p> <p>※丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p>	<p>「～について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成する。</p> <p>※丸数字は説明のために付けていますので、通常は、書きません。</p>
<p>【知】 知識のみ</p>	<p>【思判表①】 課題の設定</p> <p>【思判表②】 解決方法の検討と計画</p> <p>【思判表③】 実践の評価・改善</p> <p>【思判表④】 考えたことを表現</p>	<p>【主体態①】 粘り強さ</p> <p>【主体態②】 自らの学習の調整</p> <p>【主体態③】 実践しようとする態度※</p>

### はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方

過程と基本的な学習活動	
つかむ	<p>1 題材の課題を設定する。</p> <p>◇生活の中から問題を見だし、整理する。</p> <p>◇見いだした問題を基に題材の課題を立てる。</p> <p><b>【題材の課題】</b></p> <p>〈題材の目標に到達するための大きな問い〉</p> <p>◇学習の計画を立てて、題材の学習の見通しをもつ。</p>
追究する1	<p>2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。</p> <p><b>単位時間</b></p> <p>【めあて】</p> <p>◇実践的・体験的な活動をする。</p> <p>◇気付いたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>◇気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。</p> <p>【振り返り】</p> <p><b>単位時間</b></p> <p><b>単位時間</b></p> <p>※習得させたい知識及び技能が多ければ、この時数が多くなります。</p> <p>※「生活についての課題と実践」の題材では、この過程は省略されます。</p>
追究する2	<p>3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。</p> <p>◇学習した知識や技能を活用して、課題の解決に向けた計画を作成する。</p> <p>◇検討したことを基に、計画を修正する。</p> <p>4 題材の課題の解決に向けた実践(実習)をする。</p> <p>◇3で立案した計画に従って、実践(実習)する。</p> <p>◇実践(実習)を評価する。</p> <p>※3の学習で、家庭・地域での実践計画を作成した場合は、ここは省略されます。</p>
まとめる	<p>5 題材の課題の解決についてまとめたり、振り返ったりする。</p> <p>◇「題材の課題」について、まとめる。</p> <p><b>【題材の課題】のまとめ</b></p> <p>◇4の実践(実習)や家庭・地域での実践を基に、改善策や生活に生かしたいことを考える。</p> <p>◇<b>題材全体の振り返り</b></p>

【家庭・地域での実践】

### 〈例〉評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<p>【思判表①】記 課題の設定</p>	
<p><b>単位時間</b></p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
【知技】		【主体態①】記 粘り強さ
		【主体態②】記 自らの学習の調整
【知技】記	【思判表②】記 解決方法の検討と計画	
	【思判表③】記 実践の評価・改善	
	【思判表④】記 考えたことを表現	【主体態③】記 実践しようとする態度

繰り返し学習しながら習得する知識及び技能は、学習過程の後半で評価する。

※4 題材の課題解決に向けた実践(実習)をする」で記録に残す評価をする場合もある。

はばプラⅡに示される「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」  
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」  
(評価したことを記録に残す)  
= 記

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

・知識・技能は、継続的に指導(指導に生かす評価)を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での記録が多くなるのが考えられます。

・思考・判断・表現は、教科の目標に思考力・判断力・表現力等の育成に係る学習過程が記載されているため、必ず4つのことについて評価でする。